

## 実践報告

# 札幌市立平和小学校

継続研究 4 年目

### (1) 研究内容

研究課題：「課題 2 「サッポロピリカコタン」の活用に関する研究」

○札幌市アイヌ文化交流センター「サッポロピリカコタン」の施設見学と同施設の体験プログラム活用によるアイヌ民族の歴史及び文化の

### (2) 実践の内容

【実践①】アイヌの人たちの生活と文化を知ろう

#### ○ ねらい

資料の見学や交流、体験活動を行いアイヌ民族の歴史や文化の理解を深める。

#### 学習内容

1. 講話を聞く。舞踊・楽器演奏等を鑑賞する。
2. アイヌ古式舞踊や歌を体験する。
3. アイヌ民族の昔遊びを体験する。
4. 屋内展示物や屋外の展示施設を解説していただきながら見学する。
5. 質問と自由見学。
6. 「サッポロピリカコタンのしおり」にまとめる。



【実践②】アイヌ文様を作ってみよう

#### ○ ねらい

アイヌ文様の意味や活用の仕方、伝承の仕方について理解を深める。

#### ○ 学習内容

1. アイヌ文様についての学習を行う。
2. アイヌ文様を制作する。

### (3) 研究のまとめ

#### ① 成果

- 「サッポロピリカコタン」では、アイヌ民族の方々から直接お話を聞き、物事の捉え方や生活と自然との関わりについて学ぶことができた。また、歌や踊り、そして遊びの体験活動から、アイヌ文化について詳しく知り、自然とともに生きるアイヌ民族の方々の姿勢を肌で感じることもできた。また、しおりに見学の内容をまとめることで、アイヌ文化の特色についてより理解を深めることができた。
- アイヌ文様づくりは体験プログラムの後に行った。体験活動の後に行うことによりアイヌ文化への興味が深まり、アイヌ文様づくりに主体的に取り組んでいた。
- 本校は複数年にわたり「サッポロピリカコタン」活用に関する研究を続けてきたことにより、アイヌ民族の昔遊びの体験が高学年児童に共有されている。全校の縦割り活動である「ひまわり」の遊び計画の話合いの際にも話題に挙がるなど、アイヌ民族の歴史と文化を身近に感じている姿が見られる。

#### ② 課題

- 4学年社会科「アイヌの人たちの生活と文化」は4時間扱いの単元である。より充実した学習を展開するためには、校内にアイヌ文化を含む異文化の紹介コーナーや昔遊びの体験コーナーを常設する等、環境構成の工夫に努めることが有効であると考えられる。
- 昔遊びに焦点化するのであれば、低学年の生活科の学習におけるアプローチも有効であると考えられる。北海道に暮らす子どもたちには、低学年時から遊びを通じたアイヌ民族の歴史や文化への緩やかな理解が大切であると考えられる。

#### ③ 提言「人権教育のすすめ」

- 学校の中に、アイヌ民族の文化に触れることができる衣装や文様、読み聞かせや読書の時間に活用できるような本などが充分にあると、低学年から、アイヌ民族の歴史や文化について、より身近に感じ、更に理解を深めることができるのではないかと。
- ピリカコタンのような施設を見学することで、北海道の発展に尽くした先人の働きや苦心を知り、自然を生かしたり克服したりする知恵を明らかにし、先人の働きと自分たちの生活とのつながりに気付くことができるようにすることが大切である。